

( 1 9 ) 学校教育の充実・魅力ある学校づくり

整理 No	19	評価単位名	学校教育の充実・魅力ある学校づくり			
担当課	教育改革担当課	評価責任者	教育改革担当課長 岡部清治	担当係 グループ名	教育改革担当係	

事業の目的・目標

目的/ 根拠法令等	児童・生徒が確かな学力、豊かな心、しっかりした体力をはぐくむことができるように、学校教育の充実を支援する。
目標	学校教育の新たな方向性を示す事業を実施し、魅力ある学校づくりを進める。

目標に対する達成見込み

達成度指標	算定式等指標の説明	ベースライン (19年度)	20年度 見込み	ベースラインに 対する 達成見込み	目標値	目標設定の考え方
					(達成年度)	
保護者の小・中学校に対する満足度	保護者等意識・意向調査のおおいに満足・ある程度満足の割合	小学校:81.9% 中学校:77.7% (18年度)			小:90.0% 中:90.0% (23年度)	教育ビジョンの成果指標と同じ。魅力ある施策を提供することにより達成可能と考える。
基礎学力の習熟度	区学力調査目標値達成割合 国語読解力 算数数学思考力	小学校:77% 中学校:68% 小学校:63% 中学校:36%	現状以上 小学校:65% 中学校:55%	100% 小学校:103.2% 中学校:152.8%	現状以上 小:66.0% 中:57.0% (22年度)	国語読解力は、19年度以上を目標とした。算数数学思考力は、中学校を当面過半数超えを目標値とした。
小学校の英語活動で自分の気持ち、考えを発話している児童の割合	児童へのアンケート結果	56.8%	65.1%	114.6%	90.0% (23年度)	未来戦略プラン2008の成果指標と同じ。英語活動の充実に努めていくことで達成可能と考える。

主な取り組みと事業をとりまく社会状況

事業内容	学力向上を図る事業、芸術文化に関する事業、積極的コミュニケーション能力の育成をめざした英語活動、職場体験を含めたキャリア教育等の事業を通して、学校の魅力を高め充実するよう図る。				
運営形態	委託の内容				
主な取り組み内容	平成17年度	平成18年度	平成19年度	事業をとりまく社会状況	
1 「次世代文化の担い手」育成事業実施校数	2校	6校	7校	学力や道徳心、体力の低下や学校におけるいじめや不登校、家庭や地域社会の教育力の低下、青少年の社会性や規範意識の低下など多くの課題が山積している。また、豊島区では、私立中学校への進学率がここ10年間は30%台で推移している。 このような状況で各学校がそれぞれの特徴を持ち、魅力あるものとなるよう学校教育の充実が求められている。	
2 小学校英語活動カリキュラム時間数	-	90時間	110時間		
3 英語教育カリキュラム開発委員会・作成部会実施回数	16回	11回	8回		
4 「としまアカデミー」受講者数	-	-	78名		
5 中学生の職場体験実日数	-	-	37日		
6 食育研修会実施校数	-	-	1校		

事業コスト

(単位:千円)

構成事務事業	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度 (計画)	重要度	今後の 注力度
「次世代文化の担い手」育成事業	1,300	2,137	2,281	2,200	B	継続
区立小・中学校英語教育の充実	8,368	2,429	2,398	2,664	A	拡充
土曜補習「としまアカデミー」			1,227	1,670	A	拡充
キャリア教育			59	743	B	継続
健康教育、食育の推進事業			310	494	B	継続
地域人材等活用推進事業		250	304	900	B	拡充
直接事業費 計 A	9,668	4,816	6,579	8,671	(人件費の取扱い等)	
人件費 (正規職員数)	(2.0)	(2.1)	(1.6)	(1.6)		
(非常勤等職員数)						
(事業費計上非常勤等職員数)						
人件費 計 B	16,638	17,697	13,813	13,104		
支出 計 C=A+B	26,306	22,513	20,392	21,775		
収入 国庫(都)支出金			10	247		
受益者負担分						
その他			100			
収入計 D	0	0	110	247		
一般財源充当額 E=C-D	26,306	22,513	20,282	21,528		

現状の評価 A.予想を上回って達成した場合 B.大体計画どおりにできた場合 C.理想の状態を下回っている場合

評価の視点	達成度	達成度及び今後の課題についてのコメント
適切性 (満足度、サービス水準)	B	全体をとおして達成度を評価した場合、概ね、計画通り実施できた。ただし、事業を個別に見ていくと課題のある事業もある。「次世代文化の担い手」育成事業については、実施校については成果をあげているが、未実施校にこの事業の効果を周知し、広げていくことが必要と考える。小・中学校英語教育の充実は、一定の成果を上げているが、英語活動における教員の指導力の一層の充実、新学習指導要領への対応が課題となる。「としまアカデミー」については、受講生の評価が高く、予想を上回る達成度と捉えている。食育の推進事業については、事業についての学校への周知の徹底を図る必要がある。地域人材等活用推進事業は、本格実施に向けた取り組みを図らなければならない。
効果性 (財務と施策水準の視点)	B	
業務改善 (内部プロセスの視点)	B	
人材育成 (学習と成長の視点、人的資源の最大化)	B	

今後の取組みと予算への反映

	取組み内容	必要(不要)となる経費	影響額(千円)
重点・新規事項	小・中学校の英語教育の充実	英語活動教員研修経費	784
見直し事項	健康教育、食育の推進事業	食育推進パンフレット印刷経費(隔年印刷)	400

総合評価

現状の評価	A 成果をあげている B 普通 C 不十分
今後の事業の注力度	A 拡充 B 継続 C 縮小

< 上記判断の理由と今後の改革方針 >

小学校英語活動では、多くの子どもが楽しいと感じており一定の成果をあげていると判断する。本区独自の小学校英語活動カリキュラムは、新学習指導要領に沿った形で作成してあるので、今年度は高学年の時数の増加と内容の一層の向上を目指す。土曜補習の効果的な拡充の検討、実施が必要である。

評価の視点	意見
達成度指標の選定、目標値の設定の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された目標に比較して達成度指標の選択が狭すぎるので、別途指標を追加すべきである。 [指標を追加]</li> <li>・基礎・基本の定着の達成度を評価する指標も必要である。 [指標を追加]</li> <li>・魅力ある学校づくりの進捗状況を客観的に把握する指標の研究が必要である。</li> <li>・コミュニケーション力の育成といった場合、様々な教育活動で育成していくものであり英語に限定する必要はない。</li> </ul>
目標と今後の取り組みとの整合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校教育の充実・魅力ある学校づくり」の魅力あるという意味は、保護者からみれば、学力が高く、いじめ・不登校がないということでもある。したがって、教育改革担当課の事業だけでこの目標を評価することは困難である。</li> </ul>
現状の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校英語活動は成果をあげているが、それ以外の教科の魅力づくりについてもきちんと記述すべきである。</li> <li>・英語教育の最終的な目標が個々の子どもの表現力を高めることであれば、「学校教育の充実・魅力ある学校づくり」を英語教育等の事業だけで達成するのは困難ではある。</li> </ul>
今後の事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜補習「としまアカデミー」については、受講生の評価も高いことから、本区の独自事業として、教育委員会主催の事業として発展させていくべきである。</li> <li>・「としまアカデミー」は開催を3学期と固定せず、夏休みも開催するかなど、回数を増やすことを検討すべきである。</li> </ul>
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育力を高めるということは、教師力や授業力を高めることである。教師一人一人がきちんとした授業ができ、校長がリーダーシップを発揮して組織を動かすといった学校の総合力である。それらの要素をきちんと説明することが必要である。</li> <li>・小学校での外国語活動の導入による中学校の英語教育の状況把握も十分すべきである。また、少人数指導、弁論大会などの導入も検討すべきではないか。</li> <li>・基礎・基本の充実、学校が本来果たすべき役割を評価する視点が必要である。</li> <li>・本来言語表現力の基本は家庭で培われるものだが、小学校1年生からコミュニケーション力を育成する方策を考えることが今日的に重要な課題である。</li> </ul>